

# 会報



## 思いは一つ 「子供のために」

浜松市立佐藤小学校長 杉山 早苗

浜松市立佐藤小学校は、昭和4年浜松佐藤尋常小学校として創立され、昭和22年に浜松市立佐藤小学校と改称された、今年で87年目の学校です。児童数344名、通常の学級12、発達支援学級8、ことばの教室4からなっています。浜松市の市街地の東部、馬込川の左岸に位置し、商店や事業所が建ち並び、特に幹線道路沿いは商業が盛んです。地場産業である繊維産業が隆盛を極めた昭和34年当時に比べ、児童数は約1/3に減少しています。佐藤小学校は、

- |          |   |
|----------|---|
| ○学校教育目標  | かがやく子   |
| ○目指す学校像  | 明日また来たくなる学校<br>休み時間に子どもと教師が楽しく遊んだり、おしゃべりしたりしている学校 |
| ○目指す子供の姿 | よく考え、思いやりの心もち、いろいろなことに挑戦する子                       |

とし、子供たちの健やかな成長のために、保護者・地域・学校が「チームさとう」の意識をもち、心をひとつにして教育活動を進めています。

「ことばの教室」は、平成10年に設置されました。現在4教室で指導が進められています。4月、「ことばの教室」の開級式があり、保護者の方々が多く参加されていて、挨拶をさせていただきました。「1週間に1回の教室に、きちんと通うこと」「小さなことをほめ、1つのことを認め、子供にやる気と根気をもたせること」をお願いしました。その時、保護者のみなさんが真剣なまなざしでじっと私を見つめて話を聞いてくださいました。『子供のために』という気持ちが強く伝わってきました。

私たちは、当たり前のように「会話」し、人の気持ちを理解したり自分の思いを伝えたりしています。私たちが生活をしていく上で人とのコミュニケーションは不可欠であり、「会話」はとても重要な手段の一つです。この「ことばの教室」に通う回数は様々ですが、退級時にはどの子も満足そうで、今まで以上の笑顔が見られます。それは、語彙が増え正しく発音ができるようになったうれしさや、積極的にコミュニケーションがとれるようになったことの自信の表れのように思います。教師も個に応じた指導を心がけ、日々研修しています。子供だけでなく、保護者、そして教師が心ひとつにして取り組んでいる結果が、子供たちの笑顔につながっています。これからも『子供のために』のことばの教室でありたいと思います。

# 教室紹介

佐藤小ことばの教室では、毎月「こだま」という教室だよりを発行しています。

行事予定やお知らせ以外に、子育てや親子のふれあい、気持ちをちょっと切り替えるのに役立つようなヒントや情報を提供するように心掛けています。今回は、昨年度の「こだま」の一部を抜粋して紹介します。

## 26年度10月号より

夏休みに、静岡県のことばの教室担当者の研修会で、絵本作家宮西達也さんの講演を聞きました。宮西さんは静岡県出身で「おとうさんはウルトラマン」シリーズ、「おまえうまそうだな」で始まるティラノサウルスのシリーズでよく知られています。

「感動が感性を育てる」、「大人が一生懸命に生きる姿を見せることで、子どもに夢や希望を与える」と宮西さんはおっしゃっています。また「絵本は子どもが読むものじゃない。人間が読むものだ。」と、絵本の素晴らしさも話されました。

そんな宮西さんの絵本の中から2冊の本を紹介していただきました。「にゃーご」と「おかあさんだいすきだよ」という本です。どちらも心が温かく、優しい気持ちになれる本です。ことばの教室にも入れます。待ち時間にでも手にとってご覧ください。ハンカチが必要かも……。



### 作者から

子どもは、お母さんが大好きです。自分のお母さんがどんなにおこりんぼうでも。



お母さんは、子どもをおこります。時には感情的におこることもあります。勘違いでおこるときもあります。それでも、子どもは、お母さんが大好きです。そして、お母さんにおこられ、泣きながら子どもは寝ます。その天使のような寝顔を見ながら、お母さんは、(あー、なんであんなひどいこと言ってしまったんだろう)と思います。

そんなお母さんを、子どもは許してくれるのです。何度でも何度でも許してくれます。そして笑顔で「おかあさんだいすきだよ」って言ってくれるのです。

どうぞこの本を読みながら、子どもを抱きしめて言ってあげてください。

笑顔で「おかあさんもあなたがだいすきだよ」って。

「おかあさんだいすきだよ」のカバーより

「うつくしいものを美しいと思えるあなたのこころがうつくしい」

相田みつをの有名な詩です。野に咲く花や星空など、美しいものを見たときの感動の心は、「きれいだね すてきだね すごいね」という親の感動の言葉から育まれます。同様に、優しいね うれしいね ありがたいね 可哀想だね 悲しいねなど、感謝や、慈しみや思いやりなどの心も、それを体験したときに親から掛けられた言葉と結びついて、子どもたちの心に根差します。暴力や残酷なシーンを親が笑って見ていると、子どももそれらを面白いと感じて育ちます。

ことばの教室では、いろいろな教材を使って言葉の数を増やししたり使えるようにしたりする勉強をしています。でも、これらの抽象的な言葉は教室の中で絵カードや本で覚えるものではありません。

一番身近な人の豊かな表情や涙、温かい肉声でこそ子どもの心に響いて豊かな感性が培われていくのです。道端の小さな自然に目をやって、テレビの一場面や絵本の一ページを話題にして、ぜひ子どもたちと一緒に泣いたり笑ったりして、それを言葉にしてあげてください。

さっそく教室の帰りに美しいもの探しをしてみませんか？



26年度6月号より

26年度2月号より

すごろくのスズメ

ことばの教室では、すごろくをよく行っています。発音すごろく、生き物すごろくなど、発音の練習や、ものの名前を覚えるのに役立っています。とまったまの文を読んで指示に従うのも勉強ですが、それ以外にも、みんなで遊ぶことができるすごろくには、たくさんのいいところがあります。

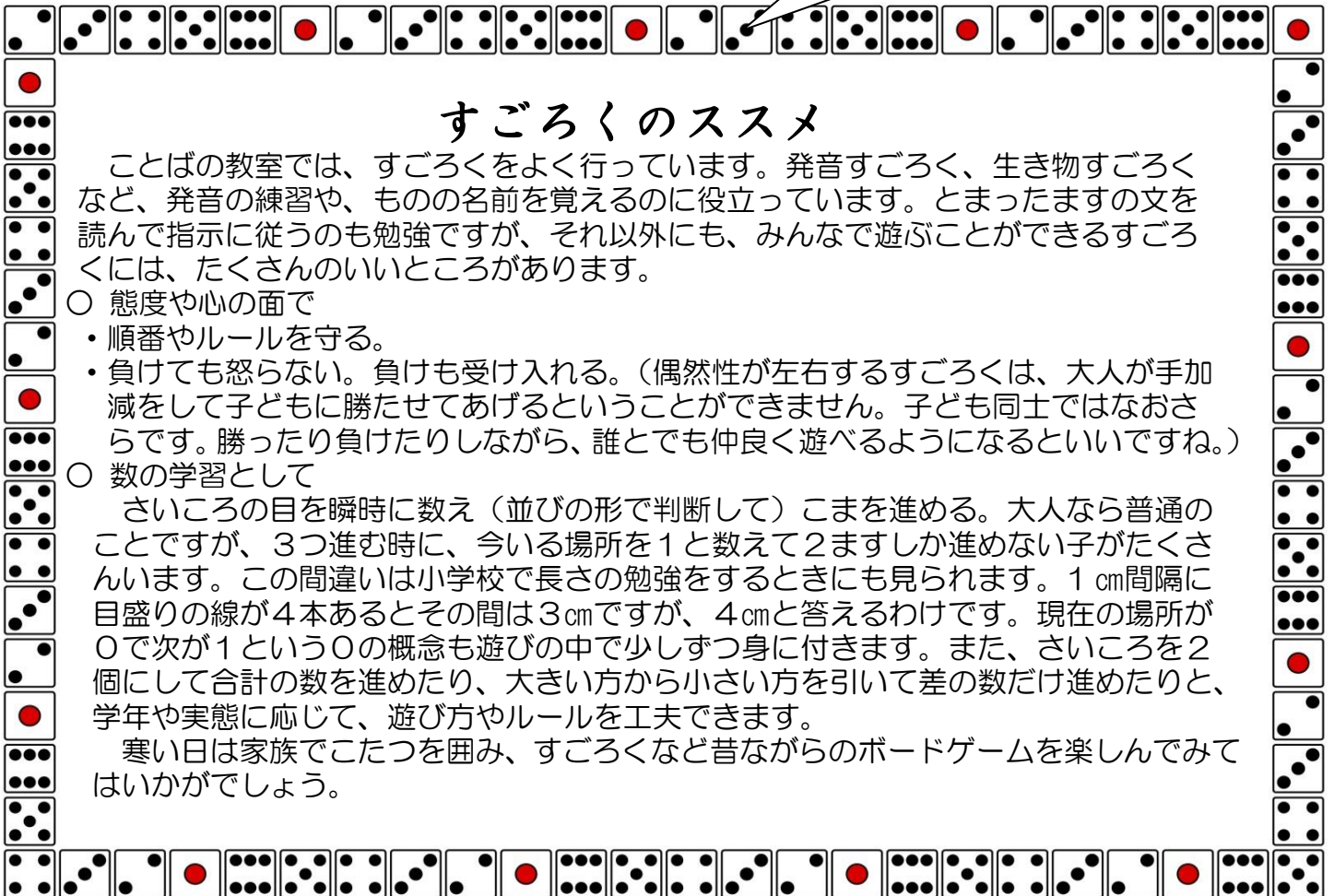
○ 態度や心の面で

- ・ 順番やルールを守る。
- ・ 負けても怒らない。負けも受け入れる。(偶然性が左右するすごろくは、大人が手加減をして子どもに勝たせてあげることができません。子ども同士ではなおさらです。勝ったり負けたりしながら、誰とでも仲良く遊べるようになるといいですね。)

○ 数の学習として

さいころの目を瞬時に数え(並びの形で判断して)こまを進める。大人なら普通のことですが、3つ進む時に、今いる場所を1と数えて2マスしか進めない子がたくさんいます。この間違いは小学校で長さの勉強をするときにも見られます。1cm間隔に目盛りの線が4本あるとその間は3cmですが、4cmと答えるわけです。現在の場所が0で次が1という0の概念も遊びの中で少しずつ身に付きます。また、さいころを2個にして合計の数を進めたり、大きい方から小さい方を引いて差の数だけ進めたりと、学年や実態に応じて、遊び方やルールを工夫できます。

寒い日は家族でこたつを囲み、すごろくなど昔ながらのボードゲームを楽しんでみてはいかがでしょうか。









26年度3月号より

以前、ことばの教室に通っていたAちゃんとお母さんが、先日久しぶりに寄ってくれました。Aちゃんは4月から、特別支援学校に通っています。Aちゃんのお母さんのお話がとっても良かったので、みなさんにお伝えします。

- ★数える… 100までを数えられることは嬉しいけれど、5までを確実に間違えることなく20回数えることができることもとっても大切。パン工場で、粉やミルクを計る時に、カップに何倍入れるかを正しくできたら、美味しいパンが出来上がるよ。
- ★恥じらいの気持ち…衣類の着脱の順序。着替える時には、上を脱いだら上を着る。下を脱いだら下を着る。決して下着だけや裸にならないようにする。お風呂に入る時だけは、OKよ。
- ★体力をつける…歩く。毎日歩く。Aちゃんは、毎日40分バスに乗って登校している。学校での日課の散歩は体力作り。秋に続けた2か月間の散歩で、この冬は風邪知らずよ。
- ★手先を使う…ボールペンをバラバラに分解して、元通りに組み立てる。回したり通したりはめたり…間違えたら、使えないボールペンになっちゃうよ。
- ★バランス…靴の履き替えは、立ってする。不安定になる時は、壁などにつかまってする。立って履き替えると、サッとすぐにお出かけできるよ。



大きくなった時に、自分で働いていただいたお金で、欲しい物や好きな物が買えると嬉しいですね。



26年度12月号より

### 魔法のことば“オノマトペ”（フランス語の擬態語・擬音語）

親子のコミュニケーションにプラスの効果を及ぼす“オノマトペ”を知っていますか？

例えば、歩くときは「テクテク」 走るときは「タタタッ」 もっと早く走る時は「ダダダッ！」など人間の行動はすべてリズムで成り立っているようです。リズムカルなオノマトペは聞くのも、自分が発声するのも楽しいため、子どもとのコミュニケーションアップにもつながるそうです。そんな言葉を“オノマトペ”と言います。

年末に向けて世の中も家庭も少し慌ただしくなります。そんな時、“オノマトペ”を使ってみてはいいかがでしょうか？例えば、「静かにして」よりも「シーだよ」や、「早く片付けなさい」より「ササッと片付けてね」など、いろんなオノマトペがあるはずです。プラスの力を借りながら親子の会話を楽しんでほしいです。ぜひ試してみてくださいね。